

## 令和2年度第3回港北高校学校運営協議会（書面開催） 議事録

（令和3年3月2日付資料送付）

### 1 資料

- (1) 令和2年度「学校評価報告書 実施結果」
- (2) 令和2年度「ICTを活用した学習活動に関する生徒対象校内アンケート結果」
- (3) 令和2年度「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート ～ 高校生活を振り返って～」
  - 3年生 生徒対象アンケート結果
  - 3年生 保護者対象アンケート結果

### 2 意見及び改善策の提案について

#### (1) 令和2年度「学校評価報告書 実施結果」について

##### 1 教育課程・学習指導

- コロナ禍の状況の中、目標に向かって着実に進めていることを確認した。
  - 1-①②：コロナ禍の状況でやむを得ないことだが、授業力向上研修会の回数が未達であったことは残念に思う。2021年度は仕切り直しで、強化の方向に向かうことを望む。
  - 1-③：Google Classroomの活用は、教員-生徒双方にとって、こなれてきたように思う。ICT化は教員個々の努力も重要だが、組織的な取り組み（教員間の能力ばらつきの克服等）がより重要かと考える。
- 大学、専門学校では、PC活用はもちろんだが、電子教科書を活用しての授業を行っている。研究授業も、Zoomであれば、教室に行かなくても、パスワードで参加できるし、いつでも見ることができるのでZoom授業も研究授業で行ってほしい。おそらく対面よりも念入りな授業計画があると思うが、ぜひ参加したい。Classroomの配信も工夫していてとてもよいと思う。Zoom面接も生徒の緊張も少なく効果的であると思う。
- コロナ禍での「主体的～深い学び」の実現は授業形態なども含めて工夫が求められると思う。引き続き様々な手法を模索しながら取り組んでほしい。ICT関係はとにかくやってみることが大切だと思う。教員に個人差があるが、前向きに少しずつ取り組んでほしい。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現目標については、ICTの活用・Classroomの活用で満足というアンケート結果もあることから、達成できたのではないかと思う。教科によってICTの活用が効果的であるものとそうでないものがあると思うので、無理なく導入・活用することでよいと思う。
- 臨時休業などその都度対応が求められていた中、生徒の学びを止めないという姿勢が感じ取れる。新設の総合的な探究の時間もその趣旨を理解し、具体的に取り組んでいる様子がわかる。
- ①：学習指導要領は、かなり進化形に見えるため、学校の対応は大変だと思う。能率的に理解度を追求し授業力向上を図るには、より高度な研究・研修等は必須で、何よりも自然な流れの中で、先生と生徒の感覚的距離感が、少しでも近づけるよう期待している。
- ②：3年生教室プロジェクター3点セットの不足が気になる。\*  
（\*注：3月中旬に、すべての教室にプロジェクターが設置された。）
- ③：消費者教育・有権者教育には、実践的な学習が伴わないと効果が薄いと思われるが、地

域にはその道に精通した方がいるので、必要あれば声掛けは可能である。

- 1-①②：令和4年から実施される新学習指導要綱にむけて大変な作業となるが、先生方の情熱と行動力に大いに期待している。

Classroom については、臨時休業中から分散登校にかけて利用が増え、通常登校となってからも活用が進んでいるとのことで、コロナがもたらした有事が短期間にICTの活用に拍車をかける結果となったと感じる。緊急事態の中、急速に対応を迫られた先生方のご苦労と生徒たちの対応能力が素晴らしい。今後加速してゆくICT活用に対して大きな前進の一步になったと確信している。

- 取組内容にある「プロジェクトチーム」の組織化の方はどのように行ったのか。研修会や共有会の意義が逆に感じられた1年だったかと思う。そんな中でも秋11月に開催できて良かった。一方でICT活用の授業は別紙アンケートから1～3教科であり、個人差はあると課題提起されながらも、生徒満足度からはClassroomでの活用評価が高く今後の浸透に期待している。

## 2 生徒指導・支援

- 生徒指導・支援については、コロナウイルスに対する生徒の感じ方はそれぞれ異なる。敏感に感じている生徒にはメンタル面のサポートをお願いしたい。来年度の新入生については、中学からの環境変化もあり、ただでさえ自分の居場所を作るのが難しいことに加えて、コロナ禍の継続は切実な問題である。2021年度もおそらく各種活動が制限される中、いかに新入学生の港北高校への愛着度・満足度を上げるかを考えてほしい。
- 日々ご苦労されていることと思うが、情報リテラシーの倫理的なものを強化する時代と考える。ICT教育が進むほど必要なので、専門家や先生方が定期的に指導、あるいは生徒に調べる学習をさせて、起きていることを共有して考えさせることも大切と考える。港北高校の生徒は賢いので、できると思う。
- 生徒指導は初期対応がとても大切だと考える。これからもアンテナを高くして取り組んでほしい。
- 何度か学校へ行った際に感じたが、服装・頭髮に関しては、高校生らしさがあると感じ、生徒たちの明るい雰囲気からも指導が行き届いていると思った。活動再開の判断に関しては、慎重で良いと思った。
- 感染拡大防止等新たな取組が不可欠の中、高校生の時期に学校として個への対応はご苦労もあったかと思う。特に部活動などは指導徹底も難しかったと思うが、生徒の姿に指導の成果が見られた。
- ①：クラス・学年での出来事は表面に出ないものもあり、各リーダーの責任は重く、横の連携を密に動きが取れば理想である。また、学校外での行動でも、通常の常識は守ってほしいと思う。
- ②：コロナ対策は万全だと思うが、諸活動の内容がかなり縮小され、生徒の生活も変化してきており、再々緊急事態宣言延長ともなれば、様々な影響が懸念され、何とか乗り越えられるよう、協力していければと思う。
- 新しい生活様式への転換で高校生の順応性はどのような実情か。そうした変容が見出し辛くなったのではと心配している。SSWのような方の存在もより大切になってきていると思う。こんな状況下でも再開再生の努力が、団結力や好循環な課題活動につながっていくことを願う。一つ一つの活動がよりその貴重さからプラスに改変されていくことと思う。

### 3 進路指導・支援

- 外部機関を活用していることについては、すべて自前で行うよりは外部の力を活用できるものは積極的に進めることでよいと思う。差し支えなければ、最終報告書には、外部機関の活用がどのような成果に結びついたかを記述いただきたい。
- 小論文は読む力、表現する力が必要だと思うが、一般的には教科書や参考書から要約して表現する力が少ないように思う。進路対策にもなり、日常の教育活動にもなると思うが、アクティブラーニングが定着しつつあるようなので、「科目に一つでも、パフォーマンス課題を各生徒に与え、登校時に他生徒2～3人の評価をして修正していく」ことを提案したい。相手の書いた文、絵を読み取り、考えて相手に文字にして返すことをしていくと、今後PCを使って限られた時間に内容をもれなく表現していく力がつくように思う。小論文の苦手な生徒には、日常的な訓練になるようである。自己評価だけや教員のみでの評価だけでなく、ピア評価が文章を書く力になるように思う。
- 中学校では、「社会の一員として」どうあるべきかが大切だと考えるが、高校では、将来へ向けてより具体的な自分探しができるとういのはと思う。
- 進路の相談について、担任の先生が親身になって相談にのってくれたという話をよく聞いた。
- キャリア教育は小学生から一貫した取組が今後さらに必要になると考えられる。進路指導が、よりよく生きるという視点でさらに位置付けられそうである。
- 現況の受検模様にも色々な変化が見られ、生徒達も対応が大変そうだが、未知の経験を活かし、これをバネに大きく成長してほしいと願っている。
- 今年一年の中で自己に向かう時間が多かった生徒たちの自己分析、表出内容が気になるところである。その一つの手段として小論文模試の取り入れに期待している。

### 4 地域等との協働

- 順調に活動が進んでいると判断する。
- HPの充実は大変であるが、それなりの効果が期待できると思われる。
- 行事が中止になる中にも連携ができていたと感じた。県のガイドラインを重視することで、他の県立高校との足並みも揃い、生徒や保護者も納得できたと思う。
- 今年度はコロナ禍で交流そのものが難しい状況であった。地域防災など小学校と連携をして、さらに地域の中にある公立校としての存在価値が高まるとよいと思う。
- このコロナ禍で思うような活動が出来ないとは思いますが、生徒個人の防災意識を高めることは十分可能だと思うので、内容の濃い意識改革が望まれるところである。また、防犯に関しても、幅広い知識が得られると良いと思う。
- 御校との交流企画が日常的な関係に発展し乳幼児課程の保護者にとって通学下校時の姿に親近感が持てているようである。アンケートのA-6の「社会への貢献意識」も保護者へのA-4の回答より「そう思う、どちらかと言えばそう思う」が高評価だったのも頼もしい結果である。今後とも開かれた学校づくりの応援をしていきたい。

### 5 学校管理・学校運営&

- 順調に活動が進んでいると判断する。
- ③ ICT関係について。本校（勤務校）では、R3年度入学の生徒は、それ以前に入学してきた生徒より各段にICT技術が向上してきており、課題を与えるとスライド、動画が少しのアドバイスで素晴らしいものを作成してくる。高校のICTに関する教育が、コロナの影響

で急激に進んだ。本校（勤務校）も9割近くがオンラインであるが、効果は対面より優れている。もちろん、内容によっては対面での授業もある。情報発信、分析、解釈のしかたについては、教える側が育ってきた時代とは異なるためICT活用準備に不慣れな教員よりも、むしろ、生徒に聞いて、生徒にやってもらうことも一つの方策と考える。

- 研修会の開催や働き方改革で、教職員の皆さんの居心地のよい高校であることは生徒にもよい影響があると思う。
- 対面での学校運営協議会の開催は難しかったが、とてもよくわかる資料を送ってもらい、様子がわかった。きめ細かな取組が素晴らしいと思った。
- 生徒と向き合う時間の確保で教員の働き方改革を推進することは、実に素晴らしいことで、大いに期待したいと思う。
- ③生徒の健康観察のICT活用の詳細が知りたい。業務改善、効率化のためのICT活用は対人時間の確保のために必須かと思う。

## （2）令和2年度「ICTを活用した学習活動に関する生徒対象校内アンケート結果」

- まず、ICTの活用について、生徒達が総じて肯定的に捉えている点が成果である。これを踏まえた上で詳細を見ると、2年生のICT活用度が高く、1年生が相対的に低いことが気になりである。ICT活用方法を見ても、「授業中に自分やクラスメートの応答や回答をリアルタイムにチェックし共有する」との質問に対する回答が、1年生は18%が活用に対し、2年生は61%と半数以上の生徒さんが活用している。1年生は、「ICT活用授業が少ないことが、ICT活用スキルが低いことにつながっている」との危惧がある。先ほどから申し上げているが、1年生のケアが最優先課題となるのではと考える。
- 学年ごとにグラフ化されたアンケート結果はわかりやすいものだった。ICTの活用については好意的な意見が多く、生徒たちにもしっかり浸透しているように見受けられた。この先も臨時休業や分散登校、時差登校などになる可能性もある中で、先生、生徒ともに活用することに慣れていってほしい。
- ICT活用について、約30%の生徒が、「操作の仕方が解らない」「使い方が難しい」「何処からきて、何処に出せばよいのか分かりづらい」等は気になるところである。
- アンケート結果全体を通してICTを授業でおおむね活用できている様子を読み取れる。Wifi環境の不具合改善の工事対応を3月中に予定されているなど、学校が着々と活用に向けての環境整備を推し進めておられるのでICTを活用した授業が今後急速に充実していくと期待している。

## （3）令和2年度「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート ～ 高校生活を振り返って～」

- 概ね、御校に対する在学生の満足度が高く、先生方の努力が実を結んでいると思う。大変な苦労があったかと推察する。成果となって表れたことを、嬉しく思う。課題を述べるとすれば、臨時休業期間における「生徒の生活リズム・学習の進行度・計画性」の乱れだろうか。やむを得ない状況かと思うが、再びこのような事態が起こった時、いかに自宅にいる生徒を指導していくかは課題となる。
- 高校生活を振り返るアンケートであるが、満足している生徒が多いことがわかりうれしく思った。保護者の意見は少し厳しい部分もあったが、大部分の生徒が満足しているというアンケート結果を見れば保護者も安心できるのではないかと思った。このような資料を見ること

ができ、先生方の教育活動への真剣さも伝わってきて、一保護者として感謝の気持ちでいっぱいである。

- 全体的に安定度が高く大変わかりやすく、内容も充実しており感心した。
- 生徒対象アンケートを通して、いかに港北生が母校を愛し誇りを持っているかがうかがえる。先生とのコミュニケーション、生徒同士の思いやりなどが困難な状況下においてもポジティブな思考を支えているのだと思う。これらはアクティブラーニングの成果だろうか。